

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 09年7月) ～コア CPI の下落率は過去最大の 2.2%

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は 3 ヶ月連続で過去最大の下落率を更新

総務省が 8 月 28 日に公表した消費者物価指数によると、7 月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比 ▲2.2% となり、下落幅は前月から 0.5 ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：▲2.2%、当社予想も▲2.2%）通りの結果であった。下落率は 3 ヶ月連続で過去最大を更新した。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比 ▲0.9%（6 月：同 ▲0.7%）、総合は前年比 ▲2.2%（6 月：同 ▲1.8%）となった。

コア CPI の内訳を見ると、ガス代が前年比 ▲2.8%（6 月：同 1.2%）が 04 年 11 月以来のマイナスに転じたほか、電気代（6 月：前年比 ▲1.7%→7 月：同 ▲4.4%）、ガソリン（6 月：前年比 ▲29.5%→7 月：前年比 ▲30.5%）、灯油（6 月：前年比 ▲40.7%→7 月：同 ▲43.4%）も下落幅が拡大したため、エネルギー全体では前年比 ▲17.5%（6 月：同 ▲14.7%）とマイナス幅が拡大した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比 0.1%（6 月：同 0.5%）と 9 ヶ月連続で伸びが鈍化した。来月にはマイナスに転じる可能性が高いだろう。

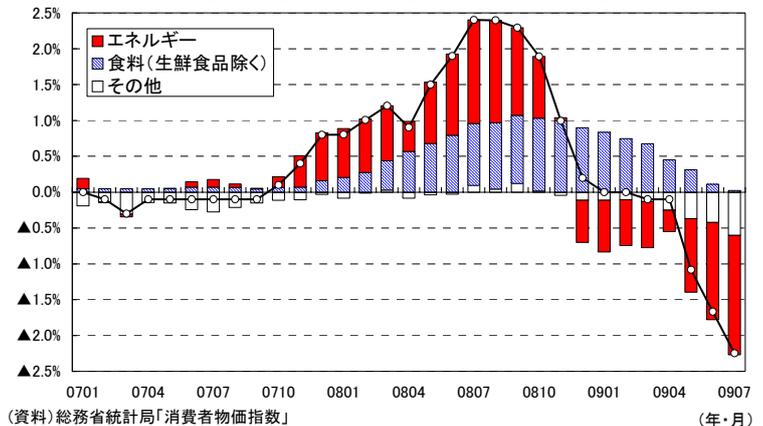
それ以外では、家具・家事用品（6 月：前年比 ▲1.7%→7 月：同 ▲2.9%）、被服及び履物（6 月：前年比 ▲0.4%→7 月：同 ▲0.7%）、教養娯楽（6 月：前年比 ▲2.6%→7 月：同 ▲2.9%）、諸雑費（6 月：前年比 ▲0.4%→7 月：同 ▲0.6%）など、10 大費

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
08年 4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	2.1	2.3	0.2	1.4	1.7	0.5
10月	1.7	1.9	0.2	1.2	1.5	0.4
11月	1.0	1.0	0.0	1.1	1.1	0.2
12月	0.4	0.2	0.0	0.8	0.8	0.2
09年 1月	0.0	0.0	▲0.2	0.5	0.5	▲0.3
2月	▲0.1	0.0	▲0.1	0.5	0.6	▲0.1
3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	0.2	0.4	▲0.4
4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	—	—	—	▲1.6	▲1.9	▲1.1

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

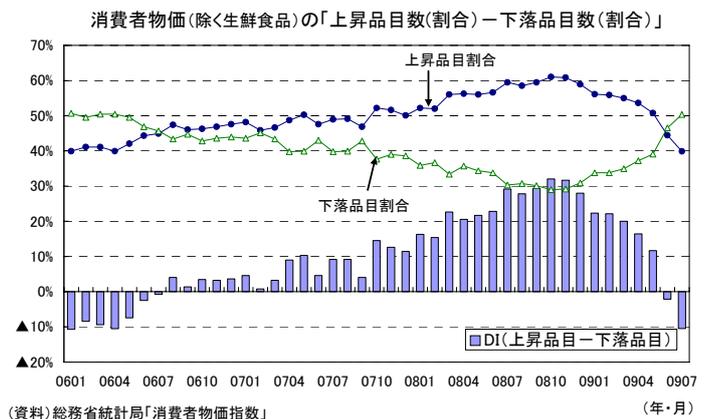


目のほとんどで下落幅が拡大した。直接的には原油安の影響を受けていない品目でも物価下落が進んでおり、需給バランスの悪化に伴う物価下押し圧力がここにきて着実に高まっている。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲1.67%（6月は▲1.35%）、食料品（生鮮食品を除く）が0.02%（6月は0.11%）、その他が▲0.60%（6月は▲0.37%）であった。

2. 物価下落品目数が半分を上回る

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、7月の上昇品目数は 209 品目（6月は 233 品目）、上昇品目数の割合は 39.9%となり、前月の 44.5%から低下した。下落品目数は 264 品目（6月は 244 品目）となり、全体の半数を超えた。「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲10.5%となり、前月の▲2.1%からマイナス幅が拡大した。物価下落の動きがより広範化していることを示したものと言えよう。

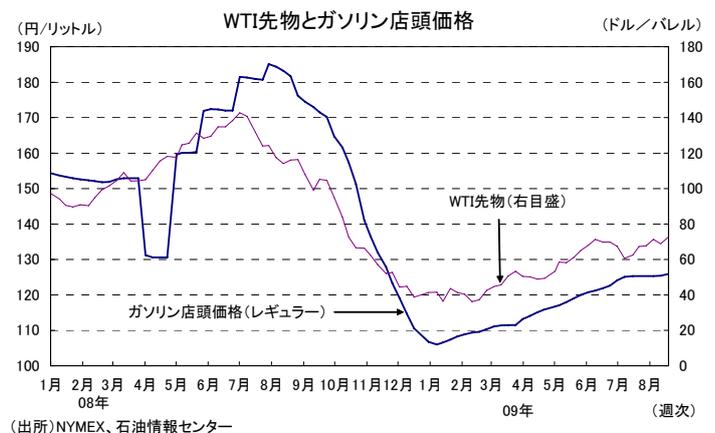


3. 全国コア CPI は当面は 2%台のマイナス

8月の東京都区部のコア CPI は前年比▲1.9%となり、下落率は前月から 0.2 ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.8%、当社予想も▲1.8%）を若干下回る結果であった。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.84%（7月は▲0.77%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.19%（7月は▲0.11%）、その他が▲0.84%（7月は▲0.80%）となり、いずれもマイナス幅が拡大した。

8月の東京都区部の結果から考えると、8月の全国コア CPI の下落率は 2.5%程度となり、10月頃までは 2%台のマイナスが続くことが見込まれる。ただし、原油価格の上昇に伴いガソリン店頭価格は 1月中旬の 106 円/リットル（レギュラー、全国平均）を底に緩やかに上昇しており、直近（8/24）では 125.9 円/リットルとなっている。今後、ガソリン価格の前年比下落率は縮小し、これまで料金引き下げが続いていた電気代、ガス代も今後は値上げに転じることが見込まれる。エネルギー価格低下の影響一巡に伴い、年末にかけてマイナス幅が 1%台後半まで縮小する可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。